

## 総会記念上映 ～風は生きようという～

呼吸器から吹く風に乗れ、つながりあう人と人の物語

ご縁があり、ケアプランえんで働く機会を頂きました。ケアマネとして仕事を始める前に、この映画と出会えたことは何よりも幸運です。病気や障害があっても、ふつうに暮らし、自分自身の人生を当たり前に送くれる社会になるために、私たちには何ができ、何をしなければいけないのか？最初に頂いた問題提起になりました。折に触れ、考えていきたいと思います。

映画の中で、ひととき存在感を放つ海老原さん。重度の障がいの一つの個性と受け止め、常に自分らしく生きています。人工呼吸器と車椅子は身体の一部。彼女の傍らには、常に介助者が寄り添い、ふつうに仕事をし暮らしています。同じ障がいをもつ仲間の悩みに耳を傾け、地域の子どもたちにもあるがままの姿を伝え、人工呼吸器の普及に奮闘する彼女の姿に、生きる姿勢に、どれだけ多くの方が勇気づけられ、生きる力をもらったことでしょうか。今に至るまでには、沢山の苦労や困難、葛藤や孤立感など…あったと想像します。個々の力だけでは、変えられない社会でも、一緒に社会を良くしたいと思う仲間が増えれば、社会は変わるかもしれません。これからも、彼女の活躍にエールを送り続けたいと思います。

もしも、自分の子どもに病気や障がいがあったら？ 私は親として、どう育てるだろう。主演の一人、ご両親と優太郎君が人生の岐路に立ち思い悩む姿に、私自身も自問自答してしまいました。リクライニング式車椅子で中学に通い、友達とのコミュニケーションは難しくても、学校という環境に身をおくことで、彼の人生は大きく輝きます。いつか、必ず一緒に学んだ日々が、それぞれの生きる糧になると信じます。優太郎君は、夜間高校に無事合格し、新たな一步を踏み出しました。彼の未来が、自身の望む生き方になっていますよう…接に願います。

誰もが、映画の主演者のように生きられるわけではありません。居場所をなくし、外にも出れず、生きづらさの中で苦しんでいる人もいるはずです。これから出会う人たちに対し、真摯に向き合い望みたい。暮らしネット・えんの目指す「高齢になっても、障がいがあっても、この街で暮らし続けるために」、まずは一人前のケアマネめざし日々精進して参ります。

(ケアプランえん／川村はるみ)